

佐賀市議会議員 自民さが たか ひろ

いなば 嵩広

ごあいさつ

令和6年度が始まりました。新たな場で新生活をスタートされた方も多いかと思えます。新型コロナウイルスが5類へと移行されてから初めての新年度となります。縮小していた地域の事業もコロナ以前の規模に戻りつつあり、活気を感じることができます。一方で飲食店をはじめとする市内経済はコロナ以前に戻りきったとは言えず、未だ厳しい状況だと感じております。今年度の当初予算は「佐賀市まるごと全力応援予算」というテーマのもと編成されています。その予算の効果がしっかりと反映されるのか、佐賀市議会として調査研究を重ね、厳しく注視してまいります。



佐賀市2月定例会のご報告

2月28日に開会し、3月22日閉会しました2月定例会は令和6年度の当初予算を審議する重要な議会です。令和6年度は「佐賀市まるごと全力応援予算」と題され、1,121億円という、過去最高の予算規模になりました。また、今年度は国スポ・全障スポが佐賀県内で開催され、佐賀市においても多くの競技が開催されます。全国からたくさんのお客様が佐賀市を訪れるこの機会を活かし、その効果を最大化するために佐賀市、佐賀市議会ともに取り組んでまいります。

令和6年度2月定例会当初予算 主な事業

データ活用による介護予防推進事業(保健福祉部) 約2,000万円

高齢者の方の医療、介護、検診等のデータを分析し、重症化するリスクのある方に対して保健師等の個別訪問や、医療機関への検診勧奨を行うために要する経費です。今年度からは口腔検診のデータも活用し、よりきめ細やかな取り組みを行います。

佐賀バレーナース連携事業(地域振興部) 5,000万円

年間約30億円という経済波及効果をもたらす佐賀バレーナース。そのバレーナースをチケット購入等で支え、その経済波及効果を更に大きくするために要する経費です。

防犯等設置助成経費(市民生活部) 約200万円

更新時期が近づく防犯灯の増加が想定され、自治会の負担軽減のため、助成制度の見直しに要する経費です。

一般質問 「基金活用による自主財源拡大を！」

佐賀市は必ずしも財政状況が悪いわけではありません。しかしながら、今後は少子高齢化により財政状況の悪化が予想されます。そのため、様々な創意工夫によって自主財源の拡大に取り組まなければなりません。そこで、市が保有する基金(貯金)を効率的に運用することで自主財源の拡大に取り組む必要性を市へ提案いたしました。

1 **問** 本市の現在の基金運用状況は？
答 基金のほとんどは大口定期預金にて運用している。そのため、預金によって生じる収益が多いとは言えない。

2 **問** 現在の物価上昇傾向の状況の中、定期預金での運用はかえって円の価値を棄損することになる。基金を長期国債での運用を検討すべきでは？
答 国債と言えども少なからずリスクがある。慎重に検討していきたい。

3 **問** 地方自治法では基金は確実かつ効率的に運用しなければならぬと規定している。効率的というのは複数の選択肢の中で最も経済的に有利な手法を選択することである。将来を見据えて効率的な運用が必要と考えるが本市の見解は？
答 残高が維持される見込みがある基金については効率的な運用を検討していく。

その他の質問 小学校給食の無償化について

厘外の市営団地が解体されました

昭和33年、末広2丁目に建設された厘外の市営団地が老朽化と入居者の減少により用途廃止をされ解体が行われました。現在は広い更地となり、その用途先が未定となっております。団地内にあった公園や広場は、周辺地域の方が普段からグランドゴルフの練習等に活用されていました。売却等を含み、新たな用途で利用されるとしても、今まで周辺地域の方が活用されていた広場の一部を残すべく動いてまいりたいと思います。



更地となった厘外の市営団地跡地。

佐賀市の公民館のあり方とは？

佐賀市では公民館の更なる利活用を目指し、公民館のあり方検討委員会が設置され、昨年度から議論をされてきました。検討会では現在の公民館は若い方の利用が少なく、若い方の要望に応えられていないのではという懸念や、営利目的での利用を制限していることでの利用しづらさを課題として挙げています。そして、その課題を基に議論が重ねられ、本年2月19日に検討委員会から坂井市長に対し、提言書の提出がされました。その提言書において利用者の増加を図るために営利目的での利用や公民館の稼働率上昇のための貸し館機能の強化などが提言されています。公民館が様々な目的で多くの方に利用されるのは非常に良いことです。しかしながら、これらの変更によって今まで築いてきた公民館の社会教育機能や校区民のコミュニティが阻害されてはなりません。今の時代にあった公民館のあり方を模索し、変えるところは変えながらも、変えてはいけないところは堅持するべく今後の動きを注視してまいります。



地域コミュニティの核となる公民館。これからの時代の公民館とは。

皆様のご意見をお聞かせください！

公民館のあり方検討委員会では多角的に多くの議論をしてきたものと思います。公民館が活性化するのは当然良いことです。一方で、これまでの公民館が築いてきた価値は大切なものです。日頃、公民館を利用する皆様のご意見をぜひお聞かせください。



他の公民館に比べ利用率が高い日新公民館。地域それぞれの特性も考慮しなくてはなりません。

佐賀市議会議員

いなば 嵩広

〒840-0045 佐賀市西田代 2-1-9

TEL 0952-77-0836

WEB サイト



LINE



プロフィール

- ・1985年10月31日生まれ 東京都出身 成蹊大学法学部法律学科卒業。大学卒業後、リグナ株式会社というネット通販会社で経験を積む。
- ・その後、インテリア関係の商社、株式会社ジェイ・シータウン(主な取引先：株式会社飯田産業、防衛省ほか)にて多くの業務に取り組む。
- ・佐賀市西田代出身の妻と結婚した事で、佐賀にご縁を頂き、佐賀で子育てをしたいと妻に相談をし、7年前に移住。11歳の長女と7歳の次女、5歳の長男の子育てで真最中!
- ・掃除や洗濯、お皿洗いなどの家事が日課で、休日は料理を担当することも。得意料理はパスタ全般。趣味は読書、料理、キャンプ、ランニング(桜マラソン2度の参加&完走!)
- ・福祉教育委員会、広報広聴委員会、九州新幹線整備に関する調査特別委員会、議会改革等検討会

